

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200338		
法人名	社会福祉法人 IGL学園福祉会		
事業所名	IGLグループホーム西風新都		
所在地	広島市安佐南区大塚西2丁目5-8 (電話) 082-848-3373		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200338-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年2月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者お一人お一人や家族の思いに沿った、生活スタイルや思いを尊重し、「できること」を支えるケアを心がけ充実した生活が送られるよう支援しています。地域密着型事業所として、地域の行事や他施設との交流を大切にしています。また、地域のお祭りに参加したり、学校との交流をもつことで、自施設を知って頂けるよう努力しています。職員同士が、お互いを思いやり、話しやすい環境を作ること、認知症のかたへのよりよいケアに繋がるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

IGLグループホーム西風新都は、2ユニットを運営している。其々の管理者は「家庭的な温もりの中で、その人らしい暮らしをささえる」ケアに対して、常に真摯な態度で取り組んでおり、利用者本位のサービスを行っている。また職員とも信頼関係をしっかり築き、チームで支援している。事業所内での暮らし方は、2ユニットが1フロアに併設され、その構造を活かして利用者が自由に行き来き出来る様に間仕切りをせず開放し、職員も様々な行事を2ユニットが協力しながら行う環境が整っており、利用者が楽しんでいる姿が伺える。更には近隣住民との繋がりもあり、町内会や運営推進会議等で情報交換を行いながら、地域の一員として暮らすため努力している。
--

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人全体の理念「隣人愛」を基に、毎日朝の申し送りで唱和している。業務で迷った時には、「コンセプトブック」に目を通したり、ミーティング等で理念を振り返りながら、理解を深めている。	法人理念の他に、事業所独自の目標である「その人に合わせた生活を支える」を基に支援に取り組んでいる。支援に迷いが生じた場合は、職員全員が所持している”コンセプトブック”を読み直しながら、理念を振り返って実践に繋げるよう努力されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、回覧板や地域行事の案内を頂いている。地域のお祭り、とんど等、毎年参加している。中学校の職場体験の受け入れも進めている。また、当施設の夏祭りにも、地域の方が、ボランティアで参加して下さっている。	町内の回覧版で地域の情報は分かりやすく、地域行事には出来るだけ参加し、利用者はとんど祭り等、昔を懐かしむ事が出来喜ばれている。また近隣の中学校の生徒や、隣のこどもの国の園児たちが訪問し、楽しく交流が行われている。後日中学校より、手紙が届く等、繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議で認知症の理解について話している。また、地域包括に協力を得て、「認知症サポーター養成講座」を開催したり、小学校での寸劇等を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、日々の生活状況（ヒヤリ・ハットを含む）や、行事などの取り組みを報告している。地域包括センターから総合事業の内容や、消防署から火災時の話などを聞き、サービス向上につなげている。また、他施設や地域の方の感染予防対策等参考にしている。	会議は定期的に行われ利用者や家族を核に、内容は事業所の運営状況等説明され、住民からは地域の情報を聞く事が出来る。更には出席者は他の5施設も参加し、その時期にあったアドバイスを始め、アイデア等、意見交換が行われサービスの向上に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議開催の案内を行い、会議録を送付し連携を図っている。不明な点があるときは、市町に情報の収集と相談等を行うようにしている。また市町発信の研修（認知症基礎研修、認知症サポーター、キャリアパス研修）等に積極的に参加している。	日頃から協力関係を築く努力はされている。管理者は認知症アドバイザーとして、年に1～2回地域包括センターより講演依頼を受け、他のアドバイザーと共に、地域の小学校や公民館に出掛け、講師として子供の目線に立って寸劇や話を行い、市町と連携を取りながら行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を行い理解を深めている。帰宅願望のある方など、必要に応じて職員が付き添い外出するなど工夫している。施設玄関の施錠はしていない。面会などは自由にきて頂いている。	職員は、身体拘束をしないケアの大切さは、外部研修やそれを基に伝達講習を行い把握している。例えば帰宅願望の利用者には、外出を拒否するのではなく、職員と共に散歩をすることで穏やかになる等取り組んでいる。言葉による拘束にも心配りをしながら支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の勉強会を行い、高齢者に対する尊厳も含め、理解し統一を深めている。「言葉が虐待につながることもある」事を認識し、言葉遣いには配慮している。些細なことも記録に残し、自分の言動、周りの言動に問題がないか、常に意識するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議で勉強会を行っている。職員全員が周知し理解できるよう、その後も勉強会を数回に分けて行っている。制度を活用し、本人の尊厳を守っていくよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に「運営規定」「重要事項説明書」に基づき説明を行っている。入居後も家族と連携を図り、不安、疑問点があれば説明を行い、理解を得られるように対応している。また、家族の来所時には、家族が安心できるよう入所での様子を伝え、話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している。家族来所時に会話を持てるようスタッフに統一し、来所が少ない家族には写真や電話で近況報告する等し、「グループホーム便り」にて、生活の様子を伝えている。また、運営推進会議の場を利用して、ご意見ご要望などを伺える機会として対応している。	家族から来所時等に意見を求める機会は設けているが、要望は余り出ない。事業所は運営推進会議を利用したり、担当者から定期的に電話等で、身近な出来事を知らせる努力はされており、事業所は家族の意見を反映する努力がある。	

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケアミーティングやその他ユニット会議を必要時開催し、意見などを聞く機会としている。また、各ユニット責任者は随時話し合いを持ち、要望を聞きながら業務改善を行っている。	事業所は、働きやすい環境を作る為の体制づくりを行っている。職員からの意見は会議の場のみでは無く、個人面談や様々な場面でを行っている。また職員からの要望があれば、話し合いを重ね必要に応じて反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに、各個人が業務に対する目標、計画をたてて評価している。個人の努力、スキルアップを把握できるよう面接をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月1回の定例学習会では、介護に必要な研修を施設内の職責者や外部講師にお願いし、学習会を行っている。法人内で中堅研修やリーダー研修を実施し、職員の育成に努めている。また、資格取得のため法人内での勉強会も実施しており、今年は2名が介護支援専門員の資格を取得した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	お互いの施設運営推進会議に参加し、交流を行っている。また、夏祭りや秋祭り行事など、お互いの活動交流を図っている。また、近隣の施設同士での風船バレー大会は毎年の恒例行事となっている。昨年初めてグループホーム協会の相互研修に参加した。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設に慣れて頂けるよう、情報収集を行い、細やかな観察と声かけを行っている。困っていること、不安なことなど、常に耳を傾け、伝えることができない方にも安心して頂けるようなコミュニケーションを図っている。ご家族にも様子を伝え、協力を得ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回面接時に限らず、行事や来所時等を通じて、生活状況を伝えるようにしている。また、コミュニケーションを深める中で家族の思いをお聞きし、家族の都合により、代わって受診介助を行うなど、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の段階では、出来る限り情報の収集に努め、アセスメントを行い、ご家族・ご本人の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のその日の状態や気持ちに寄り添い、一緒に生活をしている事を意識し、片付け、洗濯など、共に出来る事を行っている。また食事やお茶など、一緒にテーブルで楽しみ、共に生活している環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆を大切にするため、共に本人を支えていく関係を築いていけるよう、常に連絡を取り合い、ご本人に同じ視点での関わりが出来るように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が不安な気持ちにならないよう、声かけや否定することのないように努めている。面会時には、ご本人の部屋でゆっくり過ごせるように配慮したり、行事の時には家族や友人・親戚の方々にも面会に来て頂けるようご案内している。	職員は、利用者一人ひとりが大切にしてきた生活歴をしっかり把握し、また毎日の生活を通して、本人が好きなこと嫌いなことを理解し、関係継続の支援に努めている。例えば急な家族からの外出、外泊希望にも対応する等、本人本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者様の関係づくりは日々行っている。挨拶や会話をされる姿が見られ、顔馴染みの関係が図られている。なかなか他者との会話をされない方にはスタッフの方から声をかけ、コミュニケーションが図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、ご家族との会話の中で、今までどう生きて来られたかを知り、今後、本人が希望される思いや暮らし方を支援している。また、日々の生活の中で、新たに気づいたことや情報、本人の言葉などを記録に残し支援につなげている。	平素の会話の中で家族と連携を取り、出来る限り思いが実現出来る様支援に取り組んでいる。困難な場合、職員は家族から話を聞き、ライフスタイルや生活歴を確認し検討しながら希望に応えられるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしや生活環境の把握は家族からの話やライフスタイルヒストリーを基にスタッフ同士情報交換し、把握に努めている。また、本人のこれまでの写真や、普段の話などから生活歴を知るなど工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりの一日の過ごし方を、自分らしくその人らしくして頂くために、その方の生活リズムを理解し、随時対応している。また他のスタッフとも現状の把握に努め、情報交換している。		

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の要望や暮らしの中での気づきがあれば、本人も含め話し合い、また、ケアスタッフ間でのミーティングを行っている。本人や家族の希望、要望を取り入れた介護計画を作成している。	モニタリングは半年に1回本人、家族の意見が核となり、必要な関係者が現状に即した計画を作成している。又、カンファレンスを行い、状態の変化がある場合は、評価、見直しを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づき情報に対する工夫、実践を行い個別記録に記入し、統一し対応を心掛けている。月末に実践の評価をモニタリングとして記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	両ユニット間で自由な交流を行い生活されている。行事や催し、コンサートなどの企画があれば、施設内の他の事業所と一緒に取り組みに参加するなど、柔軟な対応を行っている。また希望があれば、外出・外泊など、家族との時間を大切に頂けるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のスーパーに買い物に行ったり、公園での花見や近隣を散歩している。また、地域の祭りへの参加など、地域と繋がりを持ちながら、生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、ご本人ご家族の意向を大切にし受診に結びつけている。往診での診察を望まれる場合や、ご家族が定期的な受診に付き添われる場合など、健康状態の把握については、医療とも連携を図り、情報提供など行って信頼関係を築いている。職員付き添いにて受診したときなどは、家族への報告を徹底している。	利用者や家族の希望もあり、入所前より馴染みのあるかかりつけ医に通院する人は家族の協力で通院している。事業所の協力医、訪問看護、管理者は24時間オンコールで対応しており、必要時は他科への受診もある。	

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護を受けている。この時に日々の様子や状態の情報提供をしている。状態により、主治医への報告や指示を受けるようにしている。また、日頃の心配などを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関への情報提供を行っている。入院後は面会に行き、体調の確認など随時、情報収集している。家族とも連絡を取り、思いを受け止め、病院の地域連携室とも連絡を取り合い、ご本人ご家族の思いと、施設の状況を報告し連携を図っている。退院時には病院とカンファレンスを行い情報提供を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの指針に沿ったサービスを心がけている。今までに看取りを行っており、主治医、訪問看護、ご家族、スタッフと密に連絡を取り合いながら、情報共有をしてきた。また、スタッフ間でターミナルケアの勉強会を行っている。	管理者は看取りの経験がある。入所時には家族等に説明は行われ、重度化した場合改めて家族と話し合いを行い同意書を交わし、方針を共有しながら支援する体制がある。職員は話し合いを行いながら、家族の気持ちに寄り添いチームで安心してケア出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には、月1回の学習会の時に、感染症や転倒防止の介助など、タイムリーな内容も含めて学習をしている。その他不定期ではあるが、マニュアルに添っての勉強会も行っている。日常の中で実際に想定し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害時協力体制」を締結し、協力体制を築いている。また、消防訓練を定期的に行い、年2回、消防等の指導・講評を頂き、職員への周知を図っている。運営推進会議の中で、地域・他施設で協力していくことを確認しあっている。	同事業所は地域の一時避難場所になっている。年2回の消防訓練は夜間を含め、色いろなパターンを想定し利用者と共に行っている。また地域とも災害協定を結んでおり、備蓄も確保している。職員は定期的に研修を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
しても					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室入り口にカーテンを取り付け、プライバシーを守っている。清掃等で居室に入る場合、必ずその方に一言かけてから居室に入るようにしている。またその方の言葉をきちんと受け入れ、否定しないよう心掛けている。相手に合わせ、ゆっくり優しい口調で話すよう心がけている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、職員は情報を共有している。例えば居室への出入りが頻繁な人には、趣のある”のれん”を使用する事で、プライバシーを守る等対応している。職員研修は接遇、権利関係等を行い、伝達講習や回覧を通じて共有し支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望を聞き、その方の思いを尊重し、出来ることを支えるケアを心掛けている。また、職員主導にならないような声かけやケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気を使ってなかなか思いを言い出せない方もおられることを意識しながら、寄り添って話しを聞く時間を作るようにしている。入浴時にはマンツーマンとなるため、ゆっくり話しができる環境となっている。またどのような時でも、希望に添えるよう、仕事の手を休めて、話を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	男性は毎朝個人の髭剃りを使用して頂いている。服等自分で選ぶことが難しい方へは選択方式で服を選んで頂けるようにしたり、女性ので化粧の習慣がある方には継続して頂けるよう、家族に協力をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人にあった調理の工夫をしている。季節のメニューの説明をして、食を楽しむことが出来るよう心掛けている。食後は食器拭きや片付けをしていただいている。	日常の食事は、各施設合同の厨房で作られている。メニューや味の工夫もされ利用者は、美味しそうに完食している。テーブルの配置や高さ等も、個々に合ったものが使用されている。時には外食ツアーに出掛け甘いもの楽しんだり、買い物に出掛けその場所のコーナーで食べる等、職員は工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量の記入は全員行っている。必要な方には水分摂取表を使用し、一日の水分量が一目でわかるようにしている。また、ご家族に本人の好きなものを持参頂くようお願いしている。形を変えたもの(ゼリー等)を作り、食べやすく、水分摂取しやすいものを作って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。無理強いすることなく、自分で歯磨きできる方はして頂き、難しい方は、最後に仕上げ磨きを職員が行っている。義歯の消毒も行い、衛生面には注意している。また、必要時には歯科医に相談できる環境を整えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を記入し、一人ひとりにあった排泄パターンに対応している。デリケートな部分なので、不安のないような声かけや、十分な配慮をするよう心がけている。できるだけ、今までの習慣に添えるよう、見守りや介助をしている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、必要時には医師の指示で尿量を計ったり状態を確認しながら細かく支援している。また寝たきりの利用者の排便も、Pトイレで座位を保ちながら行うと排便出来る等、自立に向けた排泄支援を話し合いながらチームで行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防と対応については一人ひとり対応が異なるため、主治医と連携を図り、それぞれに応じた方法で対応している。なるべく薬に頼らないよう、食物繊維の多い食品や、運動などを取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人に合わせ、個浴、特浴を利用している。出来るだけ、一人ひとりの希望で入りたい日に入ってもらおう心がけている。特に希望のない方については入浴表にて調整している。また、入浴希望されない方には、声かけを工夫したり職員を代えたりなどの対応をしている。	入浴の頻度は、利用者一人ひとりの暮らし方や希望に合わせて、快適な入浴を心掛けている。困難な場合には、毎日声掛けを行いタイミング(職員や声掛けの時間)が合った時に入浴して貰う等、工夫しながら支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのその日の体調に合わせ、その都度体を休める時間を設けている。就寝については、その方の状況に応じて気持ちよく眠られるよう支援している。夜間起きてこられても、お茶を出すなど、本人の時間を持って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用については、申し送りや勉強会を行い情報交換をしている。薬の変更があった場合、傾眠やふらつきなどの様子があれば記録し、主治医へ報告している。又「認知症の方と薬の関係」の勉強会にも参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴に応じ、食器拭きや食後のテーブル拭き、洗濯物たたみなど、その方にあった役割を持って頂けるよう支援している。また、季節を感じられる行事を行ったり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、パンなどの訪問販売が楽しみになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に添って、戸外に出かけられるように努めている。季節や天候に応じて近所を散歩したり、ドライブなどしている。また、ご家族の協力を得て、外出や外泊をされる方もおられ、それぞれの楽しみに繋げられるようにしている。	日常的には、隣にあるこども園の一角にある小さな神社に、お参りを兼ねた散歩に出掛けている。時には近隣にある、緑化ゾーンにうめ・さくら・つつじ・紅葉と季節に応じてドライブに出掛けたり、外食を兼ねた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お一人お一人に応じて、必要な時には所持したり使えるように支援している。また可能であれば、ご家族と一緒に買い物に行ってもらったり、好みのものを聞いて職員と一緒に買い物に行くなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけるときには、職員が家族と話しをして、それから本人と代わっている。手紙が来た時は、本人と一緒に読んだり、説明している。また、手紙を居室に飾り、穏やかな時間が持てるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用ホールには、ご利用者と一緒に作った作品や、季節感のある飾りつけを心掛けています。室温やテレビの音など、職員に合わせず、ご利用者様に十分配慮するよう心掛けています。	利用者が集まるフロアーは、大きくU字になったカウンターで食のイベントを行ったり、2ユニットが集まりカラオケや豆まき等楽しみ、仲良く過ごしている。更に利用者の「本を読みたいから図書館へ行きたい」の声に対応し、フロアーにミニ図書館を作り喜んで貰う等、心地よく過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用ホールでは、ソファで横になったり、カウンターで過ごして頂くなど、自由に過ごして頂けるよう心掛けています。また気の合った方達で一緒にテーブルで過ごされている。日により上手くいかない時は、テーブルの配置を変えるなど、穏やかに過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には仏壇があったり、以前使用していた箆箆や遣い慣れたものを置いている。また家族の協力を得て、飾り物や大切な人の写真を飾るなど、ご本人の安らげる空間を作り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員は、利用者一人ひとりが大切にしているものを把握している。居室は洗面台と広めのトイレが備え付けられ、掃き出しの広い窓はベランダに自由に出て過ごせる。また必要時には家族が泊まれるような配慮もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分の出来る事、食器拭き、テーブル拭き、洗濯干しやたたみものなど、ケアプランに沿って統一したケアを心がけ、自立した生活が送れるよう支援している。また今までできていた事をご家族からも聞きながら、無理なくすすめられるよう工夫している。		

V アウトカム項目（アルペンローゼ・エーデルワイス）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 IGLグループホーム西風新都

作成日 平成30年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出行事だけに限らず、屋上など行っているが家族に充分伝わっていない。	外出行事や日頃の生活の中での外出をご家族に報告していく。	・日頃の様子を手紙に書き送付する。 ・ご家族面会時に様子を伝え、記録していく。	1年を通して
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。